

鳥羽市地域公共交通会議会議録

会議の名称	平成 28 年度第 2 回鳥羽市地域公共交通会議定期航路幹事会
開催日時	平成 29 年 1 月 13 日 (火) 13 : 30 ~ 15 : 00
開催場所	鳥羽マリナーミナル会議室
議題	1. あいさつ 2. 協議事項 (1) 事業評価について【資料 3】 (2) 鳥羽市地域公共交通網形成計画について【資料 4】 3. その他 ・平成 28 年度実績報告について【資料 5】
会議資料	【資料 1】 席次表 【資料 2】 委員名簿 (定期航路幹事会) 【資料 3】 事業評価について 【資料 4】 鳥羽市地域公共交通網形成計画 (案) 【資料 5】 平成 28 年度実績報告について
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	なし
出席委員	斎藤会長代理、黒田委員、渥美委員、三浦委員代理山下さん、濱口委員、西川委員、小寺委員、小久保委員、東川委員代理木田さん、矢田委員
オブザーバー	なし
欠席委員	清水委員、世古委員
事務局	定期船課 野呂、大矢
<p>1. 開会</p> <p>○野呂事務局員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会 ・配布資料の確認 <p>○斎藤会長代理</p> <p>定期船課長の斎藤です。委員のみなさんご出席いただきましてありがとうございます。副市長退任に伴う議長の選任についてご説明させていただきます。みなさんに幹事会開催の通知をさせていただきましたのが 12 月 16 日でした。その後ご出席の報告をいただいている 28 日に急遽、課長会議の開催がありまして本会議の会長である副市長の退任について市長から伝達がなされました。会議の要綱では、会長の代理は会長が予め選任することとなっておりますが、退任後引き継ぎの時間もなかったことから、関係部署を通して市長へ本交通会議の開催と会長代理の選任について相談をさせていただきました。その結果市長が指名した者として事務局長である定期船課長が代理することとなりました。本日の会議については特例ではありますが私が議長を務めさせていただきますので、委員の皆様にはご理解のほどよろしくお願い致します。</p> <p>○野呂事務局員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欠席委員の報告 <p>2. 協議事項</p> <p>(1) 事業評価について</p> <p>○野呂事務局員</p> <p>資料 3 について説明。</p> <p>○斎藤会長代理</p> <p>事務局に説明させましたがご意見・ご質問はありますか。</p>	

○渥美委員

資料 3 ページの利用者数の年度の期間は 4 月～3 月か 10 月～9 月か教えてください。

○野呂事務局員

4 月～3 月ベースとなっていますが、補助金ベースの 10 月～3 月に改めさせてもらいたいと思います。

○濱口委員

バスの利用促進に対して乗り方教室しか書かれていないが、離島も高齢化が進んでいることから運転免許証返納者に対して優待券発行とか何か優遇できないか考えてもらったらどうか。

○野呂事務局員

午前中のバス幹事会では委員である三重交通からバスの高齢者向け定期券等の説明がありましたが、市民課、健康福祉課と一緒に交通安全や高齢者外出支援の考え方も含め乗り方教室等の開催を考えております。

○斎藤会長代理

午前中の会議でもそういった意見があり、既に免許を返納した高齢者や、もともと免許証を持たずバスを利用している高齢者もいることから、今後の免許返納者だけ優遇するのはどうかという意見も出ております。いろんな立場の利用者の意見をいただいてから検討を進める方が良いと言うことで、三重県のバス交通担当の委員に全国での事例が集まり次第、鳥羽市にも情報をいただきたいとお願いをしております。

○西川委員

朝の離島から中之郷に行く船とバスの連絡について、国崎線のバスだと思うが小さいため混雑してお年寄りの乗換が難しいなどの問題があると思います。

定期船では、佐田浜発和具経由答志行きで和具港での係船時間が長いためほとんどが和具港で降りてしまうのでダイヤの見直しの際には係船時間を短縮してもらいたい。

次に、一番利用客の多い答志航路に新船の運航回数が少ないので配船を増やしてもらいたいという意見をお伝えしておきます。

また、長年要望をしております答志航路の最終便の運航についてもダイヤ改正時には検討をしてもらうようお願いしておきます。

○濱口委員

西川委員の話にもありましたが、障害者や高齢者が朝の 8 時と帰りは 4 時台に多く乗るダイヤです。できれば古い船でなく居心地のいい船に変えていただければと思います。

○斎藤会長代理

ここで一つお願いします。今は事業評価に対しての意見をいただく場ですので、まずは評価に対する意見をいただきたい。それ以外の意見については今後の取組方針に記載できるものは参考とさせていただきます。

先ほど発言されたもののうち定期航路事業は矢田委員から、バス交通については事務局の方で答えられる点だけは回答してもらいます。

○矢田委員

和具港の停泊時間は、これまでの要望で短縮を図っていますが、乗下船される乗客数や荷物取扱件数が多いことから今の出港時間としていますが次期ダイヤ改正の際にも検討課題とさせていただきます。

○大矢事務局員

4 月からバスのダイヤ改正を予定しております。今は、国崎線と石鏡港線は小型バスで運行しておりますが、ダイヤ改正後は国崎線を大型バスに変えますので利用し易くなると思います。

○黒田委員

グラフでは観光客が増えています、島へ渡ってからの宿泊や買い物は見込まれるのでしょうか。

○野呂事務局員

市内の全体的な傾向としては減少傾向ですが、離島の宿泊施設の入れ込みを見てみますと答志島が群を抜いています。また、日帰りも増えていますがその辺のデータが取れないので今後取れないか検討の余地があります。

○大矢事務局員

外国人観光客については鳥羽市全体のデータで伸びていますが、離島に関してはこのデータほど伸びていないと思います。離島地区の皆さんとしてどうでしょうか。

○西川委員

サミット以降増えたことは感じます。どれだけの宿泊客かはわからない。

○三浦委員代理山下さん

宿からは増えたと聞いているが、中国や台湾などアジア系のお客は見かけがわからない。近鉄でも中国系のお客さまが多い。

○渥美委員

人口が減っていくのは仕方ないが、観光に力を入れ収支を維持していくような方針でしょうか。

○野呂事務局員

国内外に伊勢志摩サミットで知れ渡ったことから、外国人に限らず国内観光客の需要も伸びてこないかなと期待感を持っています。ですので、これからいかにして情報発信をしていくか観光部門と連携しながら離島のPRに努めていきたいと考えております。

○斎藤会長代理

やはり生活航路でもあり離島住民の利便についても、かなえられるところはやっていかないといけないと思っています。

○西川委員

船内のアナウンスにもっと工夫をしたらどうか。観光スポットの紹介により観光客には便利になるかと思えます。また、船内放送で良くなった点として混雑時に席を譲り合うようアナウンスしてもらえたことがあります。

○矢田委員

乗船客の9割は住民であり動画等のPRも毎日はいらないと苦情もありました。土日やゴールデンウィークなどの時期的に狙って放送をかけるのが有効かと思えます。

○斎藤会長代理

混雑時の船内アナウンスについては、評価できる取組として記述できればと思います。

○三浦委員代理山下さん

「まわりゃんせ」の利用状況は把握できていますか。近鉄としては販売枚数をカウントしているだけで何枚売れたと把握しているだけなので。あと、答志のブルーフィールドの利用状況はどうか。

○矢田委員

「まわりゃんせ」で定期船を利用する数は改札で見せるだけなので把握できませんが、かなりの方が

利用していると思います。

○西川委員

ブルーフィールドは商工会議所で年に数回定期的な利用はされていますが、地元観光関係者は利用していない。

○三浦委員代理山下さん

桃取では焼き牡蠣を一軒がしているが、本土と違い電車で来て船に乗り換え飲食をしてもらっている。船賃が往復 880 円かかるがその辺は何とか考えられないか。

○斎藤会長代理

定期船は恒常的に欠損が出ているので、割引したことを上回る収入を上げるとなるとかなりの乗客数を確保する必要があるので、タイアップ割引は今後の課題でもと思います。

○小寺委員

菅島航路では、今年度のダイヤ改正により 9 時台が 10 時台に変更して乗船時間の短縮になったことから便利になっています。

○小久保委員

神島航路の 14 時台は直行便となったため乗船時間が短くなって島民は喜んでいます。また、その便は神島で短時間の仕事をされる方が 15 時台で帰って来られる様になり利便が上がったと思います。

○矢田委員

しおさいで運航したことで直行便としたことで、神島での係船時間が 1 時間 20 分となって昼から神島へ行かれる方も増えました。

○東川委員代理木田さん

坂手航路は乗船客が少ないので新船はバリアフリーの小型がいいが、全国的に見てその様な船はあるのか。新船ほど大きさがなくても単胴船くらいでもいいのではないか。

○矢田委員

新船建造前に瀬戸内海に視察をしに行きましたが、瀬戸内は波が小さくて小型船でも良かったです。バリアフリー席は入り口近くに作られていましたが、通常の乗客は階段下の客室に区切られ全面フラット床にできない制約があります。そういった点で鳥羽には適してないと判断してしおさいを建造しました。また、しおさいは、単胴船の大きさと同規模で造ったのですがバリアフリー化でスペースを広くとるため定員数は大幅に減っています。

○斎藤会長代理

建造事業者は、定期船は 50 トンでも建造費用はそれほど変わらないが定員数を 100 人取れるかどうかということでした。市営船のダイヤグラムではどの船も各航路に運航しており特定の航路しか運航できない船では、どこかを減便する必要があります。また、4 年ほど前の視察で見た小型船でも建造費が 1 億 5 千万円だったことから、今なら約 2 億円はかかってしまうと思います。

事業評価の今後の対応方針には、「経営の効率化と利用者の快適性を兼ね備えた船舶建造」という記述がありますが、今後、小型化が必要と判断されれば小型化を検討する必要があると思います。

○西川委員

国の様式では、ABC 表示ではっきりとした評価ができていますが、中部様式の書き方はオブラートに包まれたような表現が多く具体性に欠けるので、自己評価でいいと思っているところは自信を持って良かったことは書いていただいていいと思います。

(以上意見なし)

○齋藤会長代理

他に意見もないようですが、まだ完成版ではないので会議でいただいた意見を組み込み修正していきたいと思います。それでは、事業評価についてご承認をいただける方は挙手をお願いします。

(挙手全員)

ありがとうございます。皆さんにいただいた意見を反映させ運輸支局及び鳥羽海事事務所にもご意見いただき修正して正式に運輸局に提出していきます。修正後は委員の皆さんにも送らせてまいりますのでご承知のほどよろしくをお願いします。

(2) 鳥羽市地域公共交通網形成計画について

○野呂事務局員

資料4についてはまだ策定途中であることから、これから計画の策定に向けて委員の皆さんの意見を頂戴しながらよりよい計画にしていきたいと思っています。特に25ページ以降の事業計画では、新しい市長に代わられますと政策の方針が変わってくることも考えられます。また、船舶建造についても経営的にも厳しい状況になっていることも勘案することになります。今後、計画策定に向けて次年度以降複数回に渡り協議をさせていただきたいと考えています。

○齋藤会長代理

事務局に説明させましたがご意見・ご質問はありますか。

(特に意見なし)

3. その他

・平成28年度実績報告について

○大矢事務局員

資料5について説明

○齋藤会長代理

事務局に説明させましたがご意見・ご質問はありますか。

○東川委員代理木田さん

荷物のインターネット分について、坂手ではお店がなくなるので、買い物ができない方が出てきます。そこでインターネット購入について皆さんの島ではどのような状況か教えてもらいたい。

○矢田委員

イオン系統からコンテナボックスで運ばれてきて3千円以上の買い物で送料なしと言うことです。中身は見ることはできないが、結構な人が頼まれています。もともと神島の方へAコープで生ものも送られていたところに、イオン系統の荷物が非常に多くなっている。

○齋藤会長代理

ネット販売業者によっては離島への配送は取り扱ってもらえない所もある。ただ、生ものについては真空パックや冷凍されていたり良い状態で流通されますので、良い商品を良い値段で売るのが主流です。

日用品でもある程度まとまれば高額になり手数料も送料もとられなくなります。また、電話でも対応してくれると聞いています。高齢者世帯はご子息に連絡してもらったり、ご近所の若い方に協力してもらおうのいいかと思います。

○三浦委員代理山下さん

うちの近所でも若い方が近くの人分もまとめて注文しています。

○小久保委員

市の行事には町内会で運賃を負担して町民に参加してもらっているが、運賃のいらぬ本土の方もいるので、市の主催行事の参加は半額でも負担してもらえないかと思っています。

○野呂事務局員

定期航路事業の損益を計算しますと年間 1 億 6 千万円ほどの赤字という状況になっています。人口減少もあり収益が下がっていく見込みと反比例して、費用では燃料費が高騰するかもしれない状況で毎月 8 万リットル使いますので 1 円値上がるだけで非常に大きな費用増となります。また、船舶の老朽化により修繕費が上がるとさらに収支を圧迫します。一般会計から市税収入を投入してもらっている状態です。そのへんもご理解ください。

○斎藤会長代理

定期航路事業の損益に対しては、国及び三重県より補助をいただいているところですので、国土交通省の黒田委員ならびに三重県の渥美委員より離島航路補助金について一言ずつ説明いただければと思います。

○黒田委員

収益についても運賃の標準的なものが人キロ当たりで決まっています、赤字になればなるだけ補助が出るわけではなく、収入の確保や経費を抑えるなど赤字を減らす努力をしている事業者には、いろんな評価をして補助を加えるという制度になっています。その結果鳥羽市には 1 億を超える補助をしています。

○渥美委員

県も国の制度に準じて協調した補助をしているわけですが、国の補助が減れば増えるように全体的に市の収支の打撃が少なくなるような補助の仕方になっています。

(その他特に意見なし)

7. 閉会

○斎藤会長代理

それでは、他に意見もないようですので第 2 回の鳥羽市地域公共交通会議の議事を終了させていただきます。本日はお忙しい中ご参加いただき誠にありがとうございます。